

台湾パイナップル購入

松波総合病院 震災復興支援の恩返し

中国政府が3月から輸入を停止し、行き場を失っている台湾産パイナップルの消費を支援するため、羽島郡笠松町田代の松波総合病院(松波英寿理事長)は、台湾から購入したパイナップルを入院患者の給食のデザートとして提供を始めた。



台湾産パイナップルを手にする李世丙処長(左から3人目)と松波英寿理事長(同2人目)ら＝羽島郡笠松町田代、松波総合病院

台湾のパイナップルの輸出先はこれまで、9割以上が中国だったという。全国の四つの病院団体が構成する「四病院団体協議会」は3月、台湾産パイナップルを病院給食に利用するよう提案している。

19日には、台湾の総領事館に相当する台北駐大阪経済文化弁事処の李世丙処長がお礼のため、同病院を訪れた。松波理事長は「東日本大震災の際、台湾から多くの義援金を受け、現地の病院再建にも役立った。その恩返しの思いでパイナップルを購入する」と話した。

李処長は「自然災害などで日本と台湾は助け合い、交流は密接。台湾のパイナップルは芯までおいしく、日本で愛されるよう期待している」と語り、感謝の気持ちとして医療用手袋を贈った。

同病院では100キロ以上のパイナップルを購入する予定で、6月まで給食で提供する。(長尾剛次)